

# FDニュースレター

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称で、本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を中心に実施しています。

今回は、2019年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2019年度 第2号 (No.7)

## ■ 2019年度FD活動実施報告

本学で、2019年度に実施したFD活動は下記のとおりです。

（2月中に計画されていたFD講演会〈1件〉、各種意見交換会〈5件〉は、新型コロナウイルスの感染防止のため、延期・中止となっています。）

### ▶FD講演会

2019年 5月18日

基調報告 「高等教育を巡る諸問題と本学の課題」 二松学舎大学 学長 江藤 茂博

FD講演 「学修者本位の教育」 国際基督教大学 学長 日比谷 潤子氏

FD報告会 「学生の授業アンケート分析から見た諸問題」 大学改革推進部・IR推進室  
「ハラスメント防止について」

二松学舎大学ハラスメント防止委員会委員長 文学部 教授 改田 明子

### ▶公開授業

2019年 5月27日 科目名：基礎ゼミナール

実施教員名：五月女 肇志 （参加教員名：荒井 裕樹、沖森 卓也、小淵 朝男、改田 明子）

2019年 6月 7日 科目名：基礎ゼミナール

実施教員名：五月女 肇志 （参加教員名：田村 幸子、迫田 幸栄）

2019年 6月27日 科目名：政治学

実施教員名：高野 和基 （参加教員名：佐藤 晋）

### ▶各種意見交換会

2019年 4月25日、6月13日、7月 4日 教職支援センターFD

2019年 7月17日 国際政治経済学部 国際経営学科FD

2019年 7月26日 大学教育学会研修報告会

2020年 2月10日 韓国語担当教員によるFD

## ▶大学教育学会への参加

2019年 6月 2日 大学教育学会 第41回大会

テーマ：「高大接続改革と大学教育」（於：玉川大学）参加教員名：文学部 教授 五月女 肇志

## ▶学生による授業アンケート

春 semester 期間：2019年 7月 8日 ～ 7月13日

秋 semester 期間：2019年12月11日 ～ 12月17日

## ▶学生の実態・満足度調査

実施期間：2019年12月 2日 ～ 12月20日

対象学年：両学部 1・3・4年生

## ■ ルーブリックの導入について

〔本学では、成績評価の信頼性向上を図るため、ルーブリックなどの整備に取り組んでいます。〕

ルーブリックとは…

ルーブリックとは、評価水準を示す「尺度」と、各段階の尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される、学習を評価する際の基準の様式です。

どのような内容が習得されていれば、その尺度に達しているかの判断ができるよう、各尺度の説明は記述様式で表されます。  
このため、定量的に表しにくいパフォーマンスの評価等、定性的なものの評価の際に、活用されます（出典：学位授与機構 高等教育に関する質保証関係用語集）。

ルーブリックの効果

ルーブリックの活用により下記の効果が期待できます。

- ① 従来のテストでは評価が困難な思考・判断・スキル等のパフォーマンス系の評価において、公平性と客観性を保つことが出来る。
- ② あらかじめ評価の観点を示しておくことで、「何をどのようにすれば評価されるのか」を教員・学生で共有できる。学生にとっては、目標を立てやすくなる。
- ③ 事後の迅速なフィードバックも可能になる。
- ④ 採点時に成績評価がふれることがないため、一貫性と公平性が保たれる。教員がレポート・発表等の採点時にかける時間も短縮できる。
- ⑤ 同一の科目を複数の教員が評価する場合等、同じ評価ができるようになる。

本学では、2019年度に、成績評価の厳格化の一環として、レポート作成や、発表・プレゼンテーションに関する『共通ルーブリック』を制定しました。  
共通ルーブリックは、全ての授業において汎用的に利用可能であるものを目指し、「レポート作成に関する共通ルーブリック」、「発表・プレゼンテーションに関する共通ルーブリック」の2種類となっています。

◆ レポート作成に関する共通ルーブリック

観点 \ 評価	S	A	B	C	D
<p>～課題に 対する内容～</p> <p>課題の内容を適切にとらえ、しっかりとした考察ができているか。</p>	課題の内容を十分に理解し、しっかりとした考察ができています。		課題の内容を理解し、考察ができています。	課題の内容の理解が不足している。考察も不足している。	課題の内容を全く理解していません。
<p>～論理的思考・ 説明～</p> <p>論理的で説得力のある主張を組み立てているか。根拠に妥当性があるか。</p>	妥当な根拠に基づき、正確かつ論理的で説得力のある主張を行っています。		妥当な根拠に基づく論理的な主張を行っています。	おおむね妥当な根拠に基づく主張を行っているが、論理性に欠ける部分がある。	全く論理性がない。根拠となる情報も妥当性がない又は意味を取り違えている。
<p>～文章表現～</p> <p>レポートとしての体裁が整っており、文章表現が適切か。</p>	体裁は十分に整っている。文章表現も十分に適切で、違和感なく読み進めることができる。		体裁は整っている。文章表現はおおむね適切である。	体裁はおおむね整っている。文章表現は適切でない箇所が多く、改善すべき点がある。	体裁が整えられていない。文章表現は大幅に改善する必要がある。文意もつかみづらい。

◆ 発表・プレゼンテーションに関する共通ルーブリック

観点 \ 評価	S	A	B	C	D
<p>～内容～</p> <p>課題にそった調査・研究が行われているか。</p>	課題に沿って十分に調査・研究が行われている。		課題に沿って調査・研究が行われている。	課題に沿って調査・研究が行われているが、不足している。	調査・研究内容が課題に沿っていない。又は調査・研究が全く不足している。
<p>～構成～</p> <p>伝えたい内容が論理的で説得力のあるものになっているか。</p>	十分に論理的に構成され、十分な説得力がある。		おおむね論理的に構成され、説得力がある。	論理的な構成が不足しており、説得力も不足している。	論理的に構成されておらず、説得力が全くない。
<p>～情報の伝達～</p> <p>発表の際に活用する資料や言葉の選び方など各種表現が発表を効果的なものになっている。</p>	資料は十分に適切で、表現方法も十分に効果的である。		おおむね資料は適切で、表現方法も効果的である。	資料の選択や表現方法を改善する必要がある。	情報の伝達技術全体を大幅に改善する必要がある。

本学では、教育の質保証の1つとして、シラバス（授業の工程表）を学生に明示しています。また、「学生の学修に焦点をあて、より学生の学修を促す」シラバスとなるよう、授業をご担当いただく先生方に記入にあたってのガイドラインを作成しています。

2020年度のシラバスでは、授業の成果としての「評価方法（授業科目の評価を行う際の、具体的な方法・配分の割合）」だけでなく、評価に関してのルーブリック表を活用できるようになりました。

## ■ 授業担当教員によるコメント

2016年度から、学生による授業アンケート結果の組織的活用の一環として、授業担当教員からアンケート結果に対するコメントシートの提出をお願いしています。

授業における様々な工夫や、学生理解のための努力など、授業改善の具体的な方法が示されているコメントシートの一部をご紹介します。

講義形式の授業であっても、「学生が主体的に何かを考える、調べる時間」などを設けて、積極的な授業参加を促したい。

授業内容の水準を落とさず、説明の仕方を工夫したり、本文朗読や挙手による意見聴取などの機会を増やしたりすることで、講義への関心を掘り起こしたい。

授業水準をどこに設定するかは毎年頭を悩ませる難しい問題であるが、内容が物足りないという学生に対しては、参考文献を紹介するなどして、より高い水準で学ぶことができるように配慮したい。

試験の採点で準備不足の学生がいることが気になった。授業内容の要点をまとめたプリントを單元ごとに配布し、試験準備に臨む環境の改善を試みたい。

講義時間の確保のため、リアクションペーパーの記入・提出の機会を設けることがほとんどできなかった。今後は、より計画的に講義を行うことで時間を作り、リアクションペーパーによって学生が積極的に授業に参加できるようにしたい。

アクティブラーニングで将来に役立つような視点を持てるように毎週の検討課題を作り、展開したいと考えます。個人で考えてグループで意見を出し合ってまとめていく形を繰り返していきたいと考えています。

動画を使う授業を行った。ただ見せるだけの授業になってしまったので、内容の聞き取りや、考えたことなどを整理させるワークシートが必要であったと考える。

コメントシートにご協力いただき、ありがとうございました！

【執筆責任】 自己点検・評価実施委員会

2020年3月31日発行

【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課 TEL: (03)3261-1285

FAX: (03)3261-7413

E-mail: [gakumu@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:gakumu@nishogakusha-u.ac.jp)